**タイトル**\*

**English Title**

音韻論太

Ronta Onin

音韻大学

Onin University

**1. セクションタイトル**

　ここからセクションを始める。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

**2. セクションタイトル**

ここからセクションを始める。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

(1)

セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

表1. タイトル

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

|  |
| --- |
|  |

図1. タイトル

**3. セクションタイトル**

ここからセクションを始める。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。セクションを書く。

**注**

\* ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

1 ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

2 ここから注を始める。注を書く。注を書く。注を書く。注を書く。

**参照文献**

Alderete, John and Alexei Kochetov. 2009. Japanese mimetic palatalisation revisited: Implications for conflicting directionality. *Phonology* 26.369–388.

Hyman, Larry 1975. *Phonology: Theory and analysis*. New York: Holt, Rinehart and Winston.

言語学子 2020『対照言語学の視点から見た日本語のアクセント』東京: 開拓社.

McCarthy, John and Alan Prince. 1995. Faithfulness and reduplicative identity. *Papers in Optimality Theory* (*University of Massachusetts occasional papers in linguistics* 18), ed. by Jill Beckman, Laura Walsh Dickey, and Suzanne Urbanczyk, 249–384. Amherst, Massachusetts: Graduate Linguistics Student Association, University of Massachusetts.

音韻論太 2014a「日本語諸方言における音調の分析」『日本語方言学会誌』63(1).77−91.

音韻論太 2014b「ドイツ語ウムラウトの音響音声学的分析」山田花子(編)『音声学・音韻論研究の最前線』77−91. 東京: 開拓社.